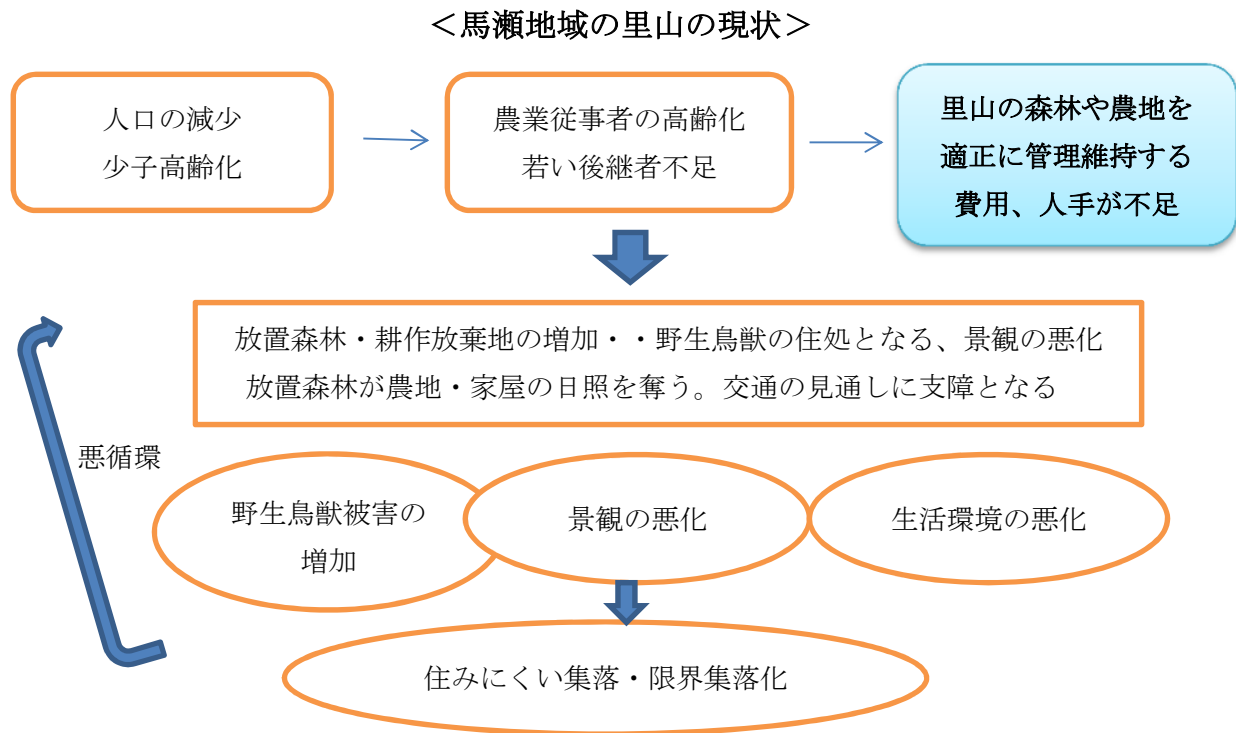


「馬瀬里山ミュージアム」の概要

1 馬瀬地域の里山を巡る現状

馬瀬地方自然公園づくり委員会では、NPO「日本で最も美しい村」連合に加盟し、美しい山村景観や「味日本一の馬瀬川の鮎」などを活かした地域づくりを推進している。近年、馬瀬地域では少子高齢化が急速に進み、特に地区間での高齢化の格差が目立ち地域の里山林・集落の維持管理が困難になりつつある。そこで、馬瀬地域全体を対象にした地域づくり（馬瀬地方自然公園づくり）に合わせ地区に焦点を当てた地域づくりを進めるため「馬瀬里山ミュージアム」の設立を図る。



2 里山を適正に管理する手法に関する基礎調査の実施

平成25年度に「岐阜県立森林文化アカデミー」山村づくり講座に対して、集落や住民が主体になって里山の森林や農地を適正に管理するための資金や労働力を確保する手法(仕組みづくり)を探る調査を委託した。

- 調査担当者 「岐阜県立森林文化アカデミー」山村づくり講座
教授 嵯峨 創平 准教授 柳沢 直 学生 天池 信正

この調査では、里山の適正管理に要する資金や労働力を確保する手法として里山を野外の博物館に見立て、案内料や特産品販売収入などを地域に還元し、それを資金に充てる「小さな経済」を築く「里山ミュージアム」の構想が提示された。

この構想の可能性を探るため、①馬瀬南部地域の里山林において今後保全すべき貴重な森林・樹木や地域に普及すべき森林施業について明らかにする「自然資源調査」を実施するとともに、②西村地区をモデル地区に選び残されている里山の遺産、伝統文化、観光面からの魅力等を探る「社会資源調査」を実施した。

3 里山ミュージアムによる里山の維持管理の資金・労力を確保する仕組みづくり

- ① 地区が主体となって施設づくりなどに金をかけないで外部から資金を稼ぎ、里山の維持管理（間伐、草刈り等）に充てる仕組み(金額は小さくとも地区を元気づける小さい経済の循環)をつくる必要がある。
- ② そのため、地区の里山や集落を野外の博物館（里山ミュージアムと呼ぶ）に見立て、そこにある資源(今ある宝、気づいていない宝もの、人の魅力)を活用して訪れて頂いた観光客や来訪者から入館料に相当する案内料や自然体験参加料、特産物販売収入等を得てそれを里山の維持管理費用に還元する。また、来訪者や都市のボランティア団体等との交流を深め里山の維持管理について理解・協力を求める。
- ③ 里山ミュージアムは、都市の博物館に劣らない機能があり地域で取り組み易い利点がある。

都市の博物館の機能	里山ミュージアムの機能	メリット
<ul style="list-style-type: none">①資料の収集 保全②調査研究③展 示④教 育	<ul style="list-style-type: none">① 現地そのものを保存活用② 現地を調査研究に公開③ 現地が展示効果を発揮④ 現地そのものが教育の場	<ul style="list-style-type: none">○ 建築物をつくる必要はない○ 維持費は不要○ 学芸員は常駐しなくてよい

4 「馬瀬里山ミュージアム」を西村地区で設立する可能性の検討

この「里山ミュージアム」の構想を馬瀬地域で実現するため、前述の「自然資源調査」及び西村地区をモデル地区に選んだ「社会資源調査」を実施した。

西村地区を対象地に選定した理由は、「日本で最も美しい村」のモデル地区としての美しい里山風景が遺されているとともに、地区では平成19年ころから、地区を挙げて集落の里山林の整備や野生鳥獣被害の防止、馬瀬川の鮎を活かした観光振興に取り組み、住民の意識や活力が高いことによる(下図)。

- 1、「日本で最も美しい村」のモデル地区に集ふさわしい里山風景がある。
- 2、平成19年から地区を挙げて積極的に地域づくりに取り組んでいる。
 - ① ホタル田んぼの造成
 - ② 野生鳥獣の侵入防止柵づくり
 - ③ 区史の編纂・発行
 - ④ 集落周辺の里山林の自主的整備(伐採、間伐)
 - ⑤ 味日本一の鮎を活かすため、住民全員が参加した築組合、鮎取り隊を結成し伝統漁法の築の復活、火振り漁の一般公開

<今まで得られた成果>

- 野生鳥獣被害の減少
 - 集落の景観の改善
 - 観光振興
 - 皆で地域を守る意識の向上等。
- 3 温泉浴ホテル、道の駅、さんまぜ工房等が立地し来訪者の確保が期待できる。
 - 4 岩屋ダム下流の名古屋市との上流下流交流の実績がある。
尾張地方水道協議会が地区で研修。今後NPO堀川1000人隊との交流を予定している。

里山ミュージアム設立の可能性

実施した「自然資源調査」及び「社会資源調査」2つの調査から、西村地区には地元の人には当たり前と感じているが、よそ者の目で見ると新鮮な驚きや魅力を感じる隠れた資源(宝物)が多く存在し、地域の意識が高く活力もあるので今後「小さい経済の循環」をつくり、それを呼び水に里山整備や集落の活性化を進めることが出来る「里山ミュージアム」を設立する可能性がある判断された。

自然資源調査(馬瀬南部地区)

社会資源調査(西村地区)

<保存すべき貴重な森林・樹木が発見された>

<隠れた資源、保存すべき里山文化が発見された>

- 1 今後保全すべき資源
魚付き保全林(2か所)
風景林(3か所)
- 2 推進する森林施業技術
沿道修景間伐技術
- 3 巨樹古木の保存(5か所)
- ◎ 鹿による樹木の食害が大きく防除対策が必要である

- 1 馬瀬川の伝統漁法の継承
(あじめ罟漁など)
- 2 独自の漬物文化の保存
(里芋の茎、ズイキの利用)
- 3 里山資源の高度利用
(トマト栽培にススキの堆肥利用)
- 4 今も残る伝統的な水文化
(水船、清水の利用)
- 5 消えた養蚕文化の保存
(土室、用具)

ふれあいマップ

里山ミュージアムは「歩く」ことが基本となる。調査のエキスを「ふれあいマップ」に集約して表現した。

5 「馬瀬里山ミュージアム」(西村地区)の設立

(1) 組織及び運営

「馬瀬里山ミュージアム」は施設を設けない野外を舞台とする博物館で、地区の資源をイベントや特産物販売などの活動によって活かし地区の経済的發展に利用すること主な狙いとしている。

このため、提案者の馬瀬地方自然公園づくり委員会を始め、地区住民や地区の観光施設(ホテル美輝、さんまぜ工房、道の駅)、団体(ヤナ組合、漁協、南飛驒馬瀬川健康農園等)の相互理解と協力が必要である。

しかしながら、「馬瀬里山ミュージアム」の構想は新しい地域活性化の手法であり、まずは関係者に理解を深めてもらうとともに来訪者(ゲスト=来館者)確保のためのPR活動も必要である。

このため、①当面は特別の組織体を設けなくて、馬瀬地方自然公園づくり委員会が主体となり、専門機関の「岐阜県立森林文化アカデミー」の指導アドバイスを受けながら、西村地区住民(有志)を始め関係者に呼び掛け、連絡会議を設け話し合いながら運営する。

②将来的には、地区住民が主体的に地区の生活や生業そのものを活かし、地区を教育の場、展示の場、おもてなしの拠点、滞在の場と幅広く活用し、しかも地域住民に収益が還元される「小さな経済循環」という機能を持ったわが国でもユニークな「さとやま生活博物館」として確立することを目指すこととする。

「馬瀬里山ミュージアム」運営連絡会議（案）

- 馬瀬地方自然公園づくり委員会・・・総括、企画、計画、調整
- 西村区（有志）・・・来訪者の案内説明、農業体験講師、特産品販売など
- 南飛騨馬瀬川観光協会・・・ツアー、イベントの企画、来訪者の誘致・募集
- 馬瀬総合観光株式会社（ホテル美輝）・・・同上、地区で対応できない食体験等への協力
- さんまぜ工房・・・地区で対応できない特産物販売、食体験等への協力
- 西村築組合・・・やな、火振り漁と里山巡り等の組み合わせなどの連携
- 馬瀬川プロデュース・・・森、川などを活かした自然体験との連携
- 南飛騨馬瀬川農園・・・田植体験、トマト狩り等との連携
- 個々の農家・・・飼育している動物、栽培している作物等の見学に協力

（2）当面の活動スケジュール

当面は、馬瀬里山ミュージアムの趣旨、存在のPRに力点を置いて諸活動を実施する。

平成26年度、農林水産省「都市農村共生・対流総合対策交付金」（平成26～28年度、約2,350万円）が認められたのでその一部(概算80万円)を活用する。

① 平成26年度

5月14日（水） 西村区説明会（19：30 西村集会場）

5月22日（木） 「馬瀬里山ミュージアム」の設立説明会（13：30 ホテル美輝）

（馬瀬地方自然公園づくり委員会、西村区、関係行政機関及び団体、新聞社）

7月～10月 ミニツアー（野外ウォーク） 4回予定 自然公園委員会+西村区有志協力

11月9日（火） 第2回馬瀬清流の里ノルディックウォーキング大会（コースを西村地区に設定）

ノルディックウォーキング+下呂市主催ツーデイウォーキング+あったか祭り

② 平成27～28年度

平成26年度の実施状況を検証しながら、内容の充実を図る。

○ ミニツアーの開催、 農業体験の開催、 農家カフェ等の実施

○ 案内人養成講座（地域住民、関係団体）

（3）将来展望

3年後を目途に、地区で自主的に企画や計画を立て実施することができれば、やる気が生まれ地域で課題を解決したり、地区に収益が多く還元される仕組みづくりが定着することが期待される。

最終的には日本初の「さとやま生活博物館」を目指す(地区の資源を活かした日常の生活や営みそのものが、教育、展示、おもてなしの拠点、滞在の場となり小さな経済を築いて地域の活性化につながる)。